

上位魔族

なのだが？









この私の体を寄越せだと！

だんっ！

ふざけおって！

人間風情が！

●ノジャー・ルーチュ

都からもっとも近い
魔塔の主人

獣人の血を引く魔族

弛まぬ鍛錬により
最大で六人の分身体を
生成することが可能

仕方あるまい！

ぐぬぬ…

上位魔族である
私に逆らうことの愚かさを
体に教えてやろう！

二度と反骨心など
生まぬようにな！



六人もの私の攻撃をいなす
ことは人間相手ではまず不可能

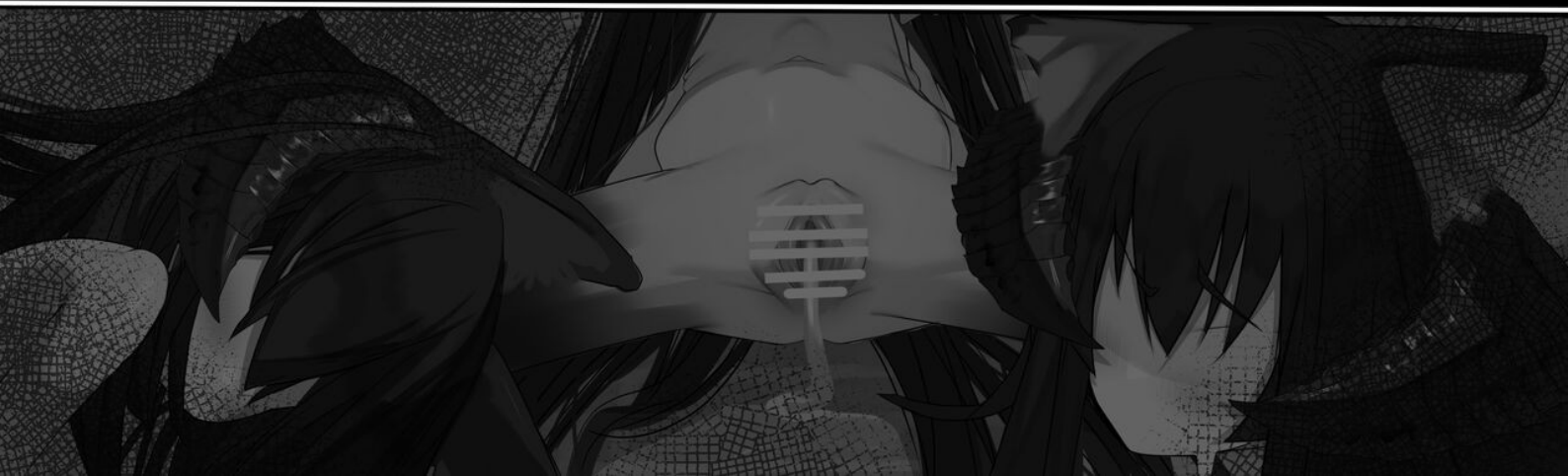
私の塔に攻め入ったことを
後悔させてやる

私本体の魔力は
ほとんどなくなるが
奴らの心を砕いてから
悠々自適と
午後を過ごさせてもらおう

散るがいい
ウジムシどもが

格の違いを知るがいい

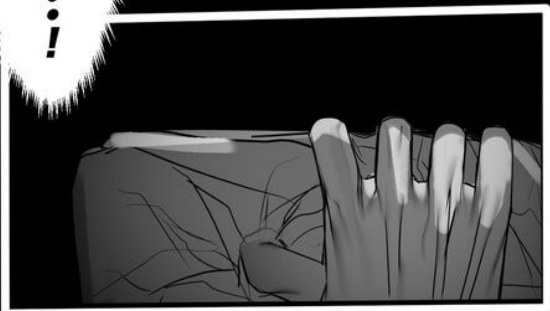






分身とはいえ、
レイプされている
自分を置いて逃げるのは
気がひけるが...

今は逃げるが吉...!



ずん

このままでは私も
娼婦のような慰み者にされてしまう

人間、舐めてた:

※ 本体



飛んで逃げるだけの
魔力もある...!

塔の中を通ってここまで
来るのには流石に時間がかかるし



え?



どうしよう、これ

魔力きれとるしなあ...

上に二人、隠れてたぞ

外壁から登ってくるとか
卑怯ではないか...

おっ！綺麗な奴
まだいたんすね！

つか、あの塔を素手で登るとか
相変わらずイカれすぎつすよ隊長！

ゴキョ
バチョ
ゴキョ
バチョ
ゴキョ
バチョ

バズ

分身

バチョ

並べて隣でやるか

こいつら生まれたてみたい
何も知らないつすよ！

全員が処女だし
指でまんこ掻き回してから
ちんこ挿れたらこれつすよ

わたし
分身、初の快楽に溺れておる

幸せそうに、あえぎながら、
腰をうちつけられながら、
尊厳捨てながら、絶頂しとる





意識を保つのだ

私は分身とは違うのだ
このような慰み者になつてたまるか



まずい、喉のほとんどが
こいつのちんこで塞がれて息がしづらい

引き剥がそうにも、
こやつ腕力が強すぎる



息継ぎが...

生きるのに必死な
口呼吸バキュームフェラしやがつて

ちゅ



そのまま
素直にちんこの
味見でもしとけ



クッポッ

ゴッポッ

グキッポッ

ギンギン

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

グッポッ

ミニマムな口が
良い使い心地だ

おう、
そろそろ射精すぞ

全部飲むまで離さねえから
せいぜい喉ならしてザーメン味わえよ

くるしい！苦しい
息が吸いたい！

此奴の精液で唯一の空気の隙間が…



意識が…

遠のく

あーあ、こんなので
意識を失いやがった

まあ、続きは持ち帰ってから
楽しむとするか



氣を失っていた…のか？

は？



完全に拘束されている…！

それに…

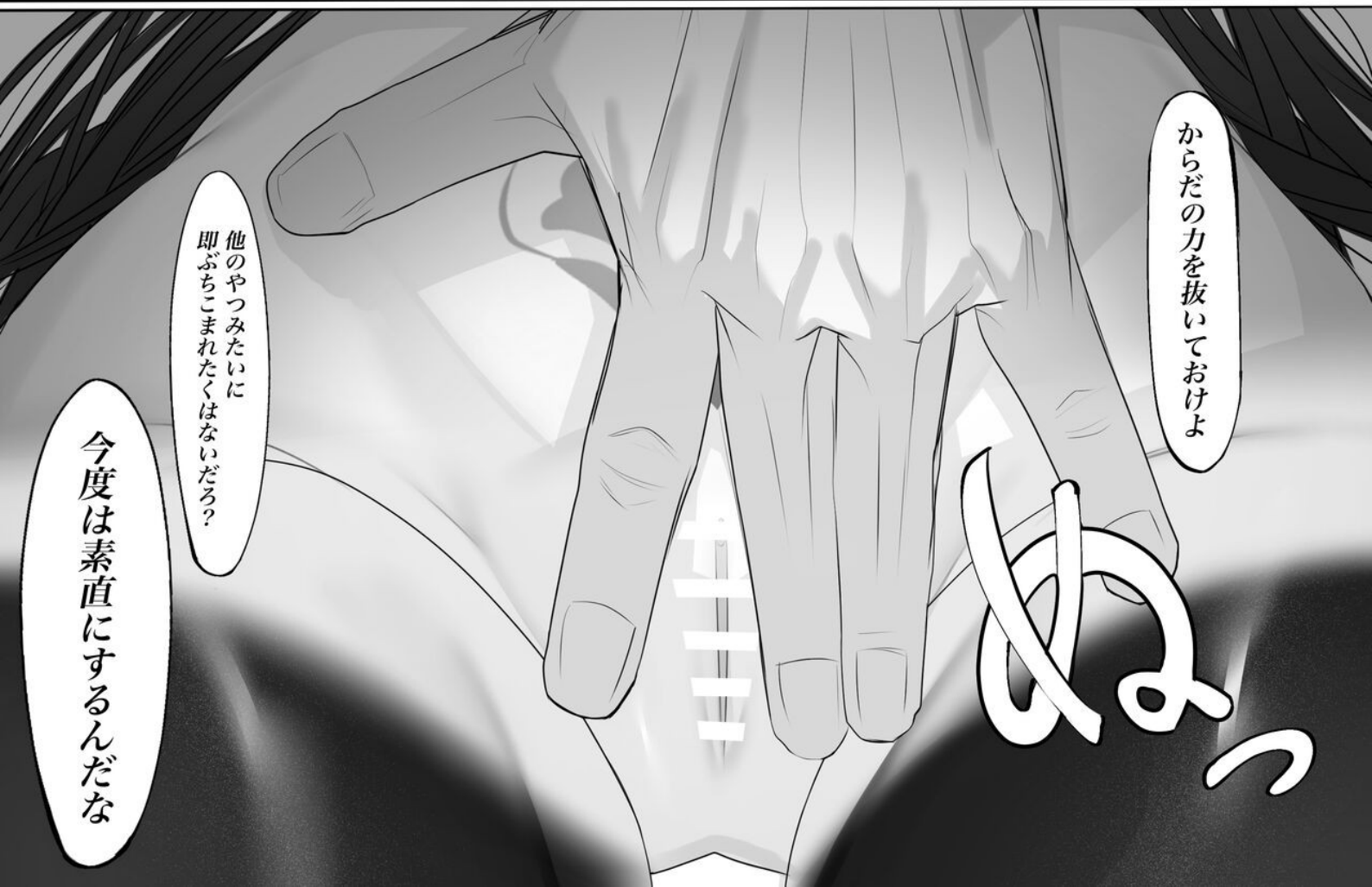
なんだこの場末の
娼館の女のような格好は…

くっ屈辱だ…



よお、目が覚めたか

さっきの
続きといこうや



うおっ、きつつ

クチュ

クチュ

30分後

ほぐれてきたな

グチュ

グチュ

グチュ

グチュ

グチュ

グチュ

一時間後

気持ちいいだろ？

グチャ〜

膣は素直だな

無駄な時間だ

すん

下衆が、私を籠絡しようなどと

飽きずに人の中を
ぐちゅぐちゅと…

はい

良い加減にしろ
貴様…

はい

はい

はい

へっへたくそが…

はい

はい

はい

はい

はい

はい

微塵も気持ちよくないが？

そうか

二時間後

此奴は、いったい

おん

はい

はい

はい

はい

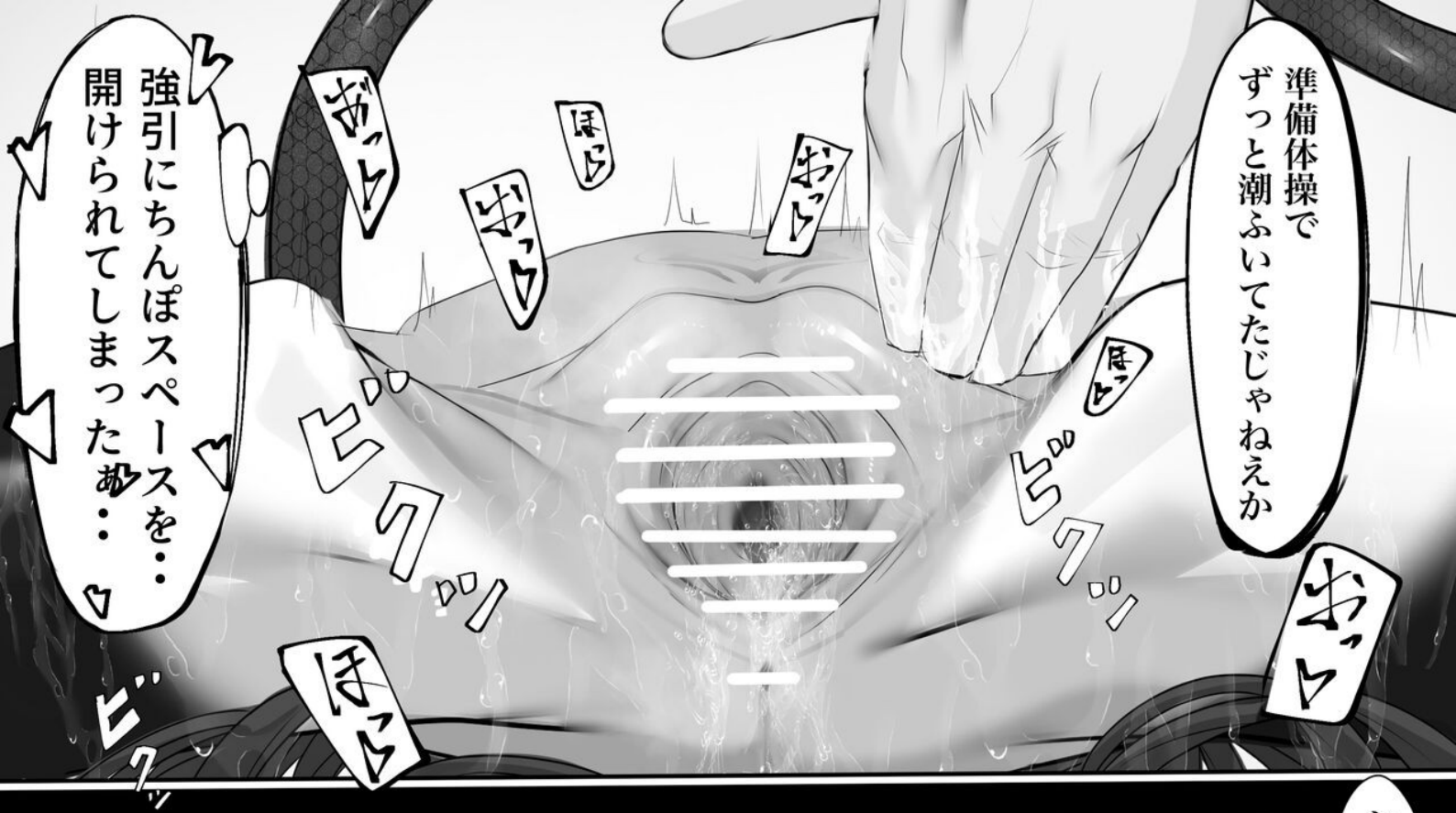
はい

はい

はい

いつまで
続ける気なのだ





じゃあ、使うか

すぐ壊れてくれるなよ

大きく

なんと雄々しい圧だ

体格差などまるで
赤ん坊と大人ではないか

馬鹿みたいにほぐされたおまんこに
こんな凶悪なモノをぶちこまれたら…

一撃で今までの私なんて
子宮と共に潰されてしまう…

膣に力を入れて
入口を狭めるのだ…

ん？

まだ挿入れづらいな

過去を思い出せ

己を見つめ直すのだ

ぎゃちっ

壊してほしい

あらゆる知識を
詰め込み

研鑽を怠らず



魔力促進剤 (自作)

毎日の食事とて
手を抜いたことはない

確な血統ではない
私に休まる時などなかった

思い返せば
ワガママなど

全て
押し殺してきた



女の子って

一回だけなら

は。あ。。

問題ないはず・

きもちいい

女にしてほしい

犯してくれ



やつばあ

これ





すごい、すごい！

交尾ってすごい！



おまんこ、
ちんこに引っ張られてる

くる…、
次に一番深くおまんこを抉る
鬼畜ピストンがくる…

やっと全部入ったな
初めてが俺のじや他の奴とは
もうまともなセックスできねえよ

お前はもう、
俺のモノだ

アセ

アセ

アセ

グセ

手加減、躊躇なしの乱暴な動きで
意識飛ばされそう...

圧迫感すご...
人肌の温かさも相まって
ガサツにされてるのに
愛されてるみたい...

ダメだ...

こんな乱暴な抱きしめ方なのに
此奴のことが好きになっっている...

もう捕えておく
必要はねえな

好きにしな



手枷を外しおったな！
貴様など我が魔法で
吹き飛ばしてやるわ！

謝っても許さないからな！

あ？



ちよっと待ってくれ！
かわいい冗談ではないか！

好きにしろと
いったではないか！

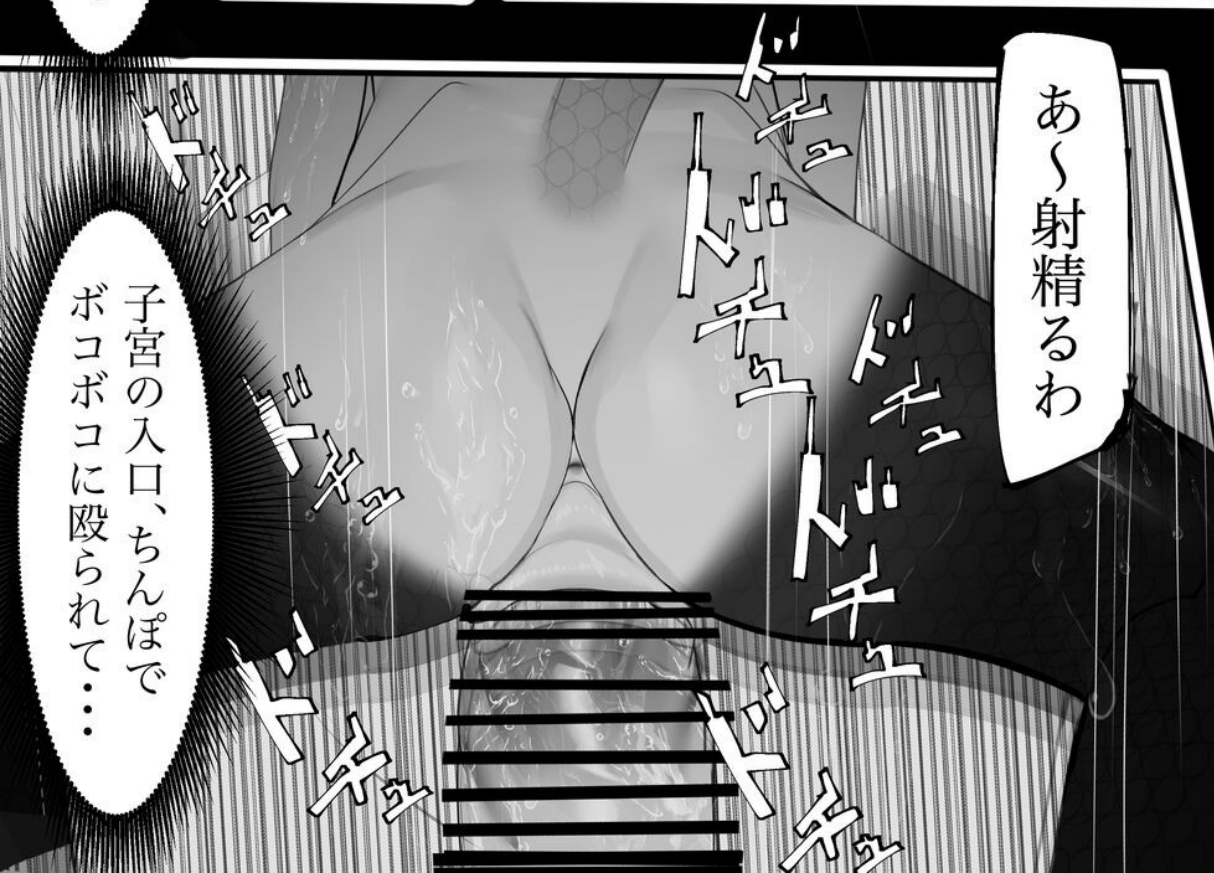
これ以上は本当に
おかしくなる！
おかしくなるから！





あゝ、頭とろけるゝ

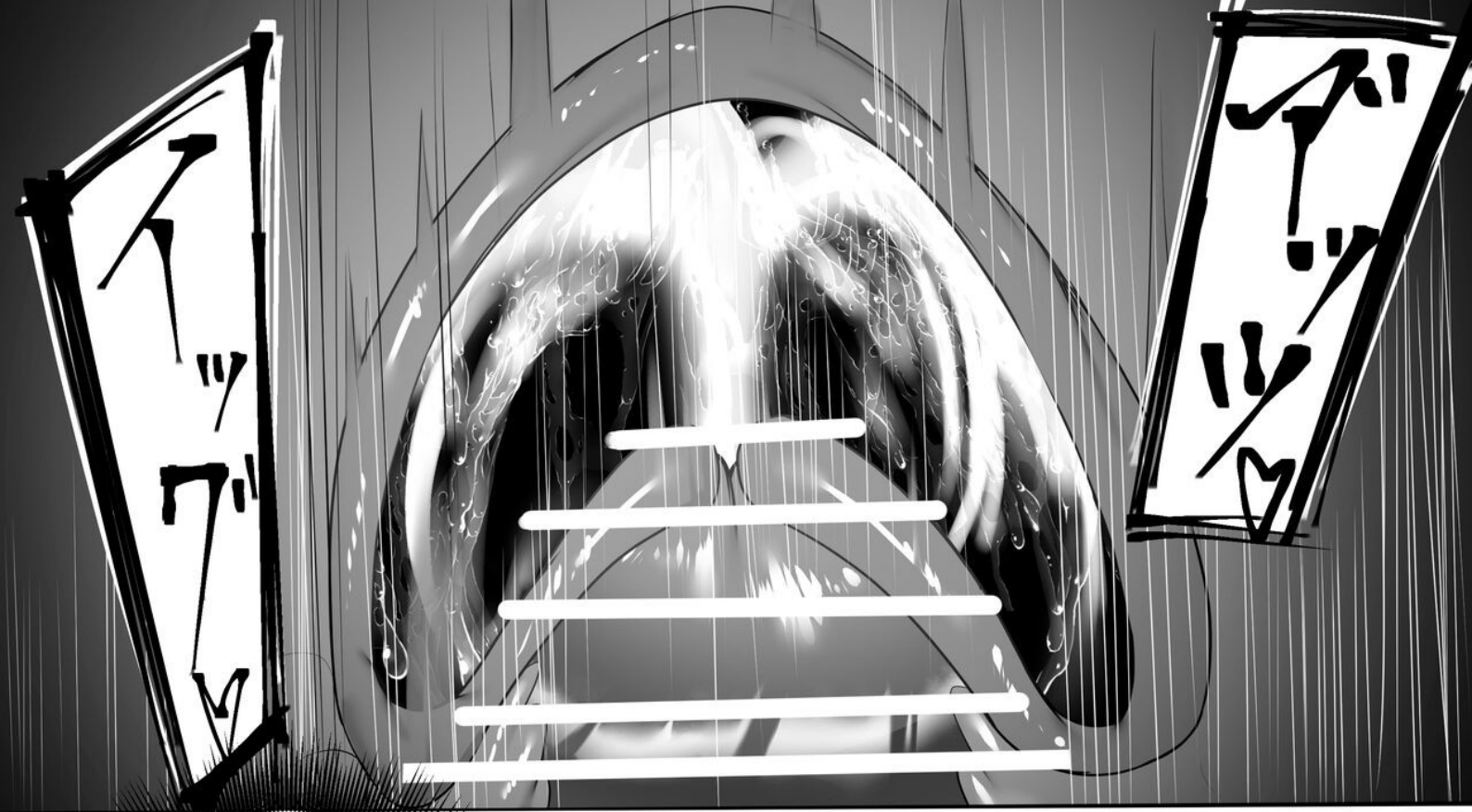
後ろからデカチンで
奥どちゅどちゅされてる...



子宮の入口、ちんぽで
ボコボコに殴られて...

あゝ射精るわ





すつご、痙攣だけで
腰が浮き上がったって…

明日も使ってやるから
体洗っとけよ…

膣にこいつの所有物ですって
マーキングされちゃった…

たぷ

たぷ



体を重ねられたあの日から、
仕事おわりの此奴の
それを口で鎮めるのが日課になった

今の私の立場は
曖昧なものだが基本は
此奴の性処理用らしい

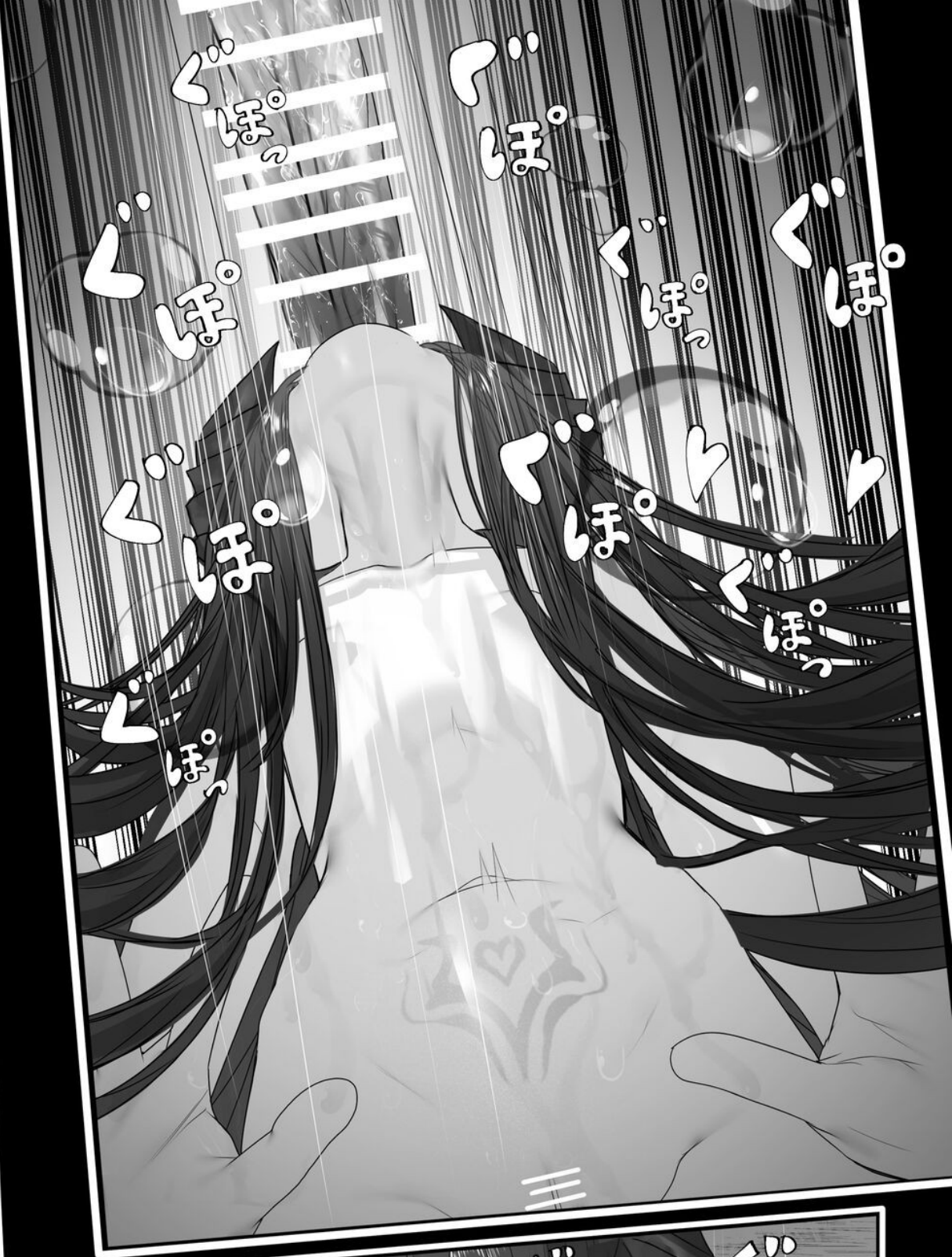
団員はそれなりの数が
いるらしく、隣の部屋から
別の女の嬌声が日夜
聞こえてくる……

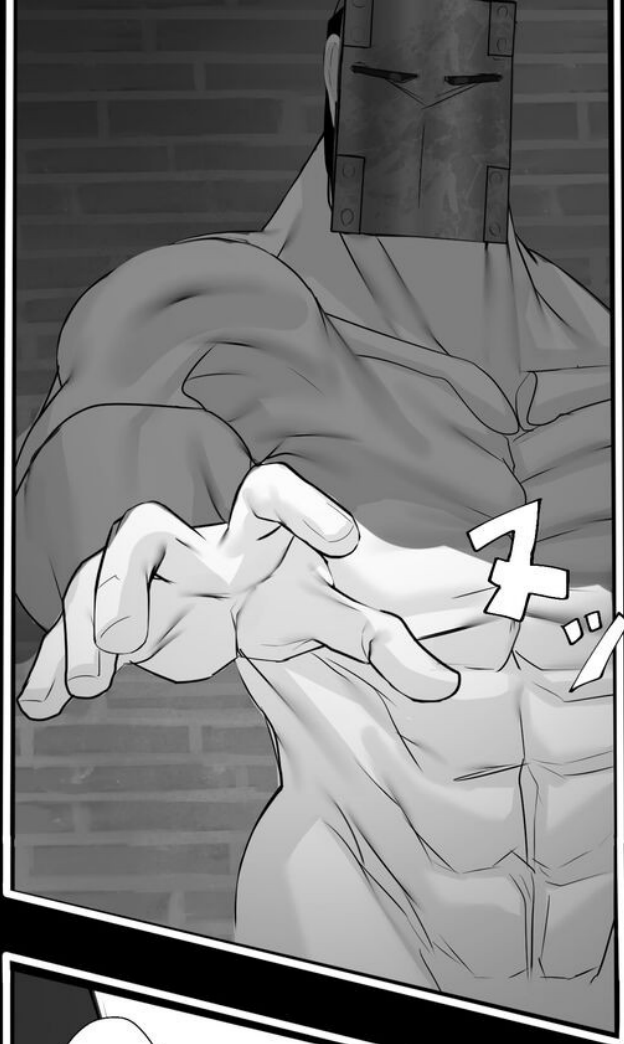
そういえば、
私の分身は元気にしてるだろうか

自由意志でも

私の元に戻ってこれるはずだが
本体の私がこんな有様なので
分身もそれぞれの主人のもとで
夜伽に興じているのだろう……

……考えても仕方がない





此奴の陰茎は
並大抵のサイズではないので、
胃の寸前まで使わなければならない

準備できてるぞ……？



俺は寝る
お前も休め

え？

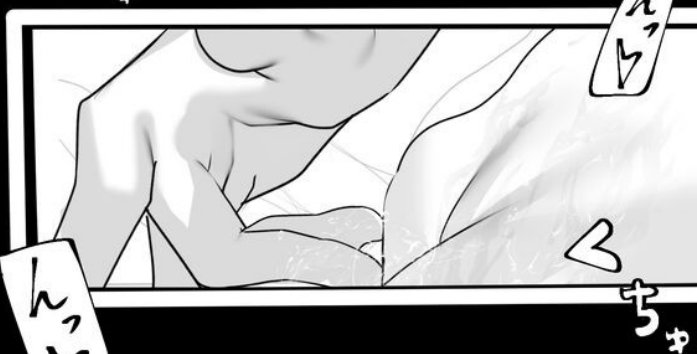
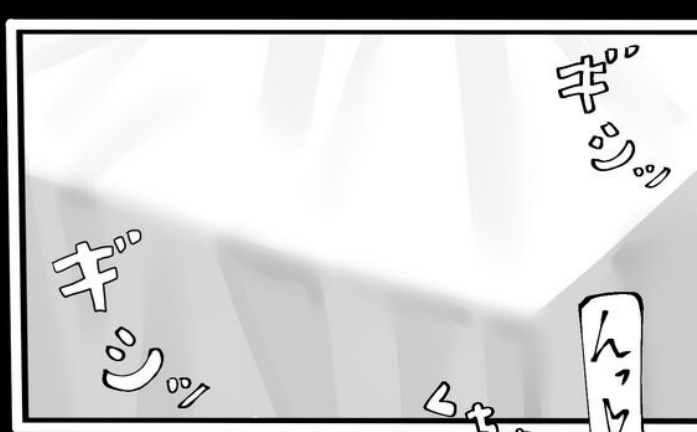


あつ…

はい…

お預けっすか…

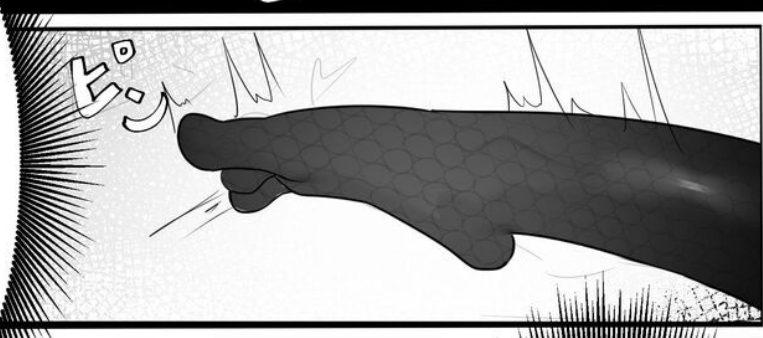
…はい



でも、足りない！

カエルみたいに脚を開くと
さらに気持ちいい！

足先をピンと伸ばすと
気持ちいい！

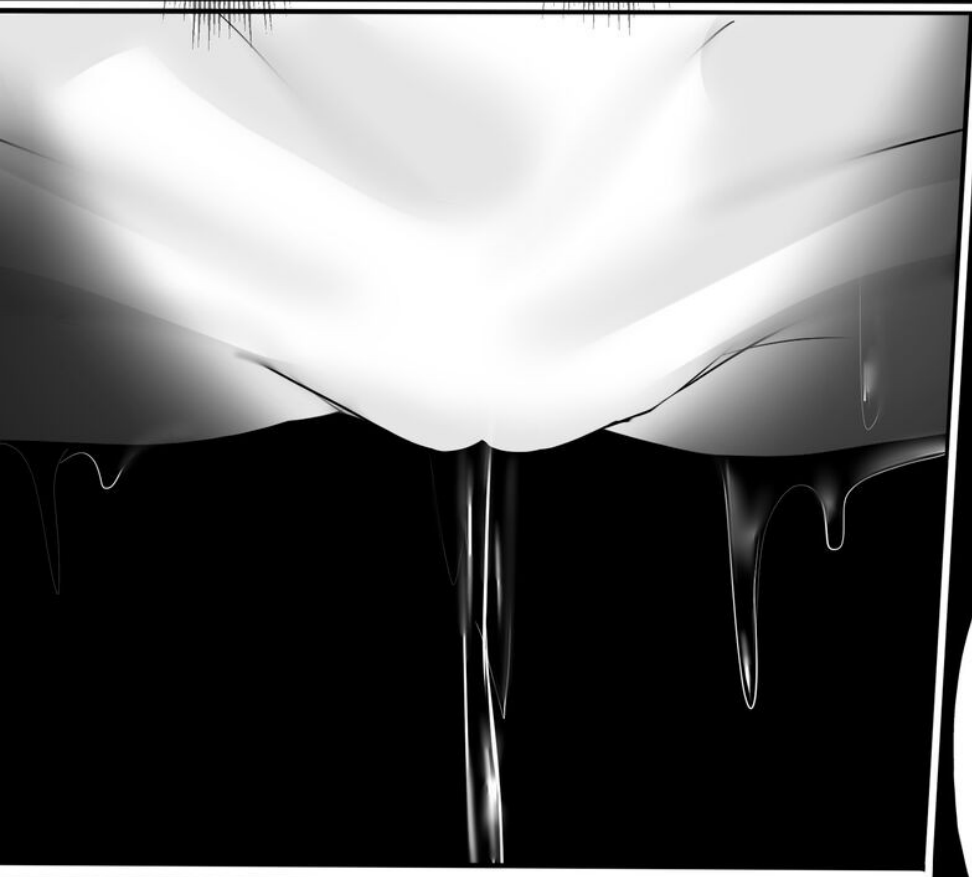


1秒でも早く、あの凶器で
貫いてほしい…

尊厳を粉々に砕いてほしい…

メスの生存意義を教えてほしい

コワシテほしいなあ…



入るぞ



おまんこ虐めてくれないと

襲っちゃうぞ。。。？

喜べ、言われなくても

使ってくれ

使い潰す気だからよ

やったあ…！



激しすぎる♡
お構いなしの腹ボコセックス♡

俺の子を孕ませてやる
魔族と人間だろうが、孕むまで犯してやる

プロポーズ
専用性処理宣言！

そんな生き方、考えただけで

孕んでも犯してやる

壊れるまで使ってやる

幸せ成分いっぱい出て

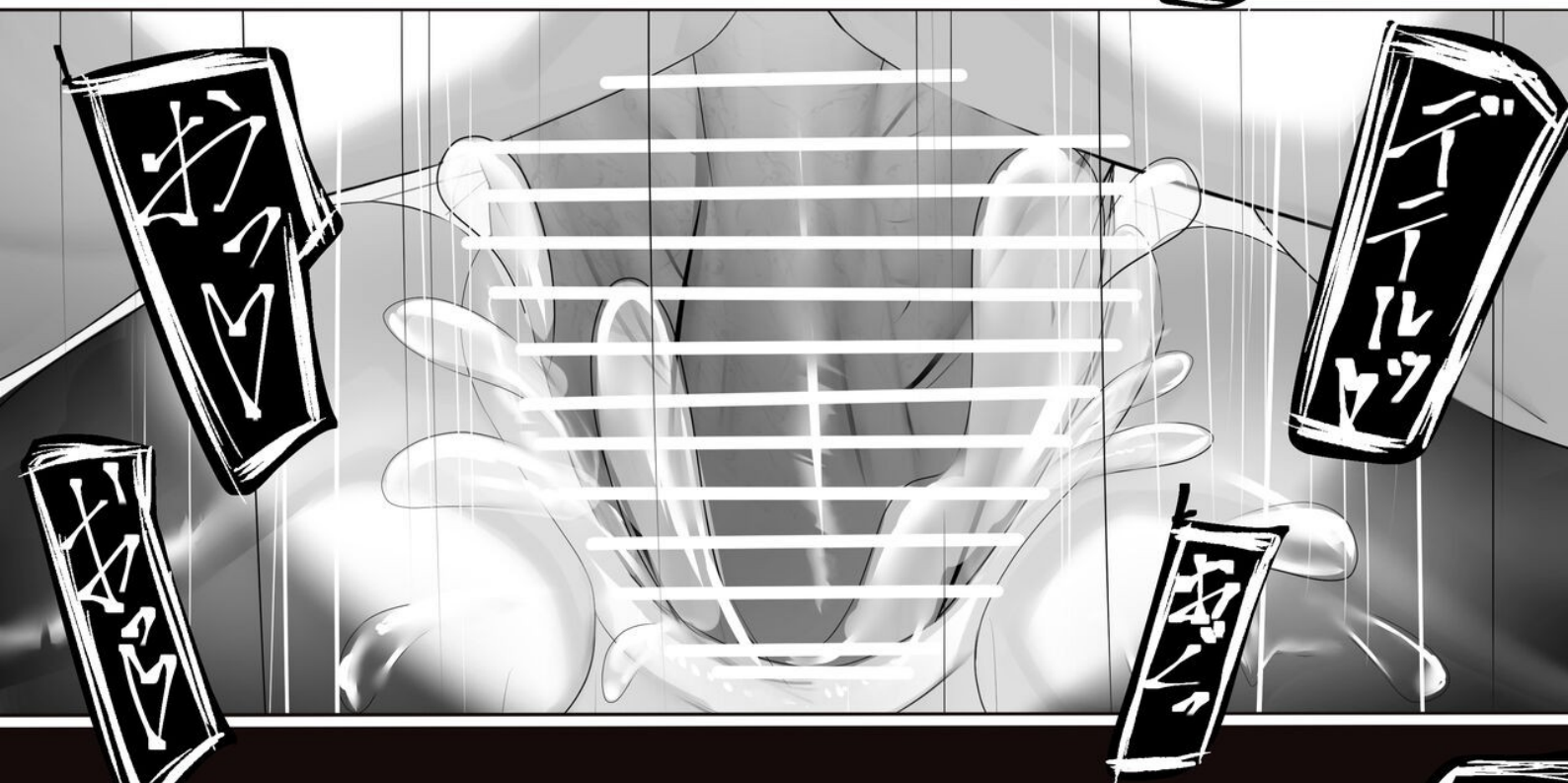
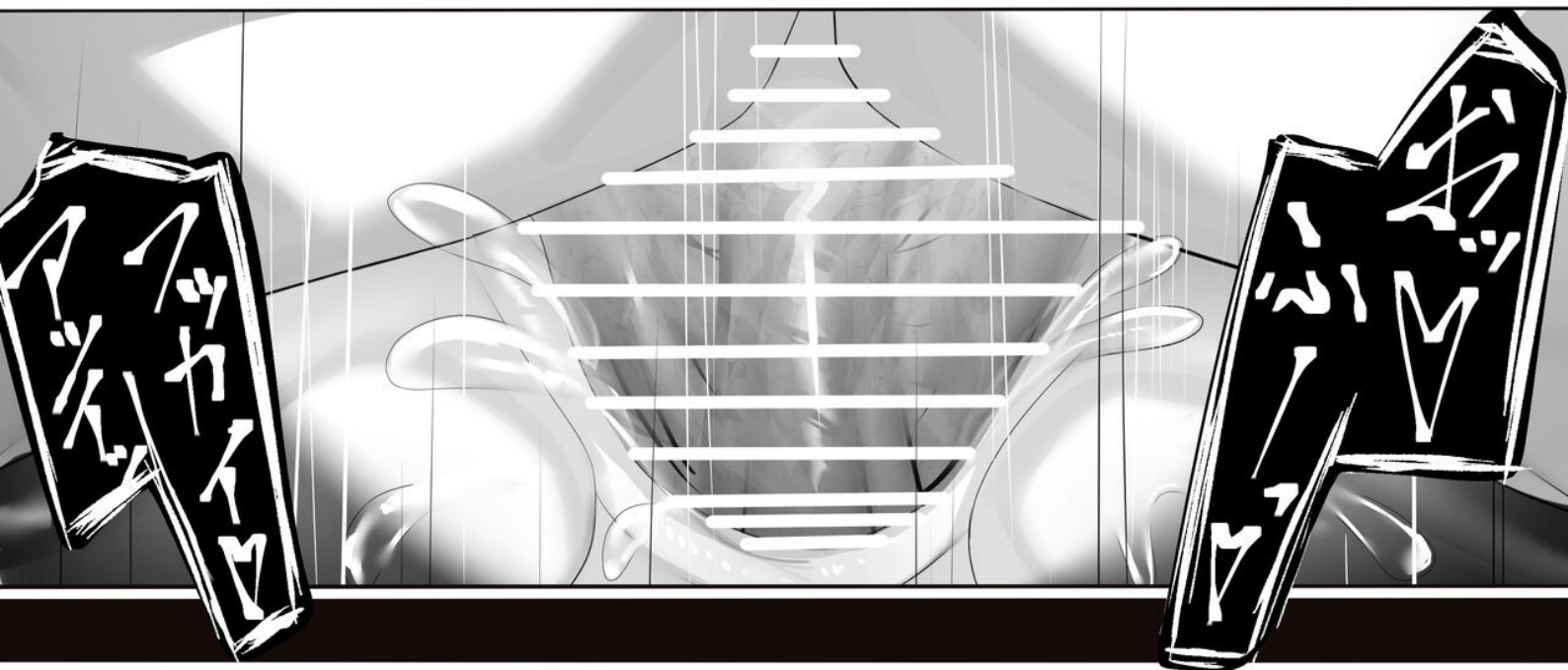
イグイグイグイグイグイグイグイグイグ
イグイグイグイグイグイグイグイグイグ



あゝ射精る射精る



おぐっ♡おっ♡ほー♡
おおほ！おおおっ！おおおおっ♡





おまんこ♡



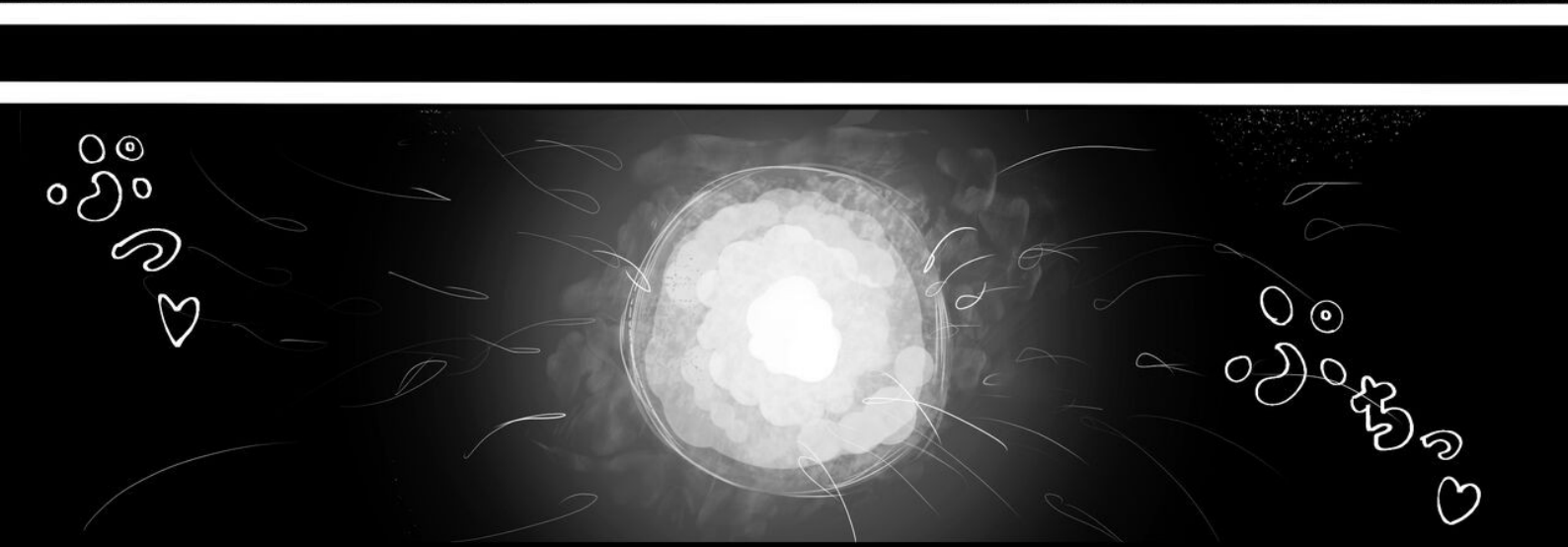
た〜ましいおちんぽ♡

ぶ〜といちんぽ♡

おちんぽ大好き♡

おまんこ♡

ありがたく孕め！



ふう、ここ最近で溜まった分は
スッキリしたな

これだけ、子宮どついても
新品みてえに締め付けやがる

ちんこ引き抜くのも
一苦労だ...

力づくで抜いたら
ガバガバになるかもな

まっいいか

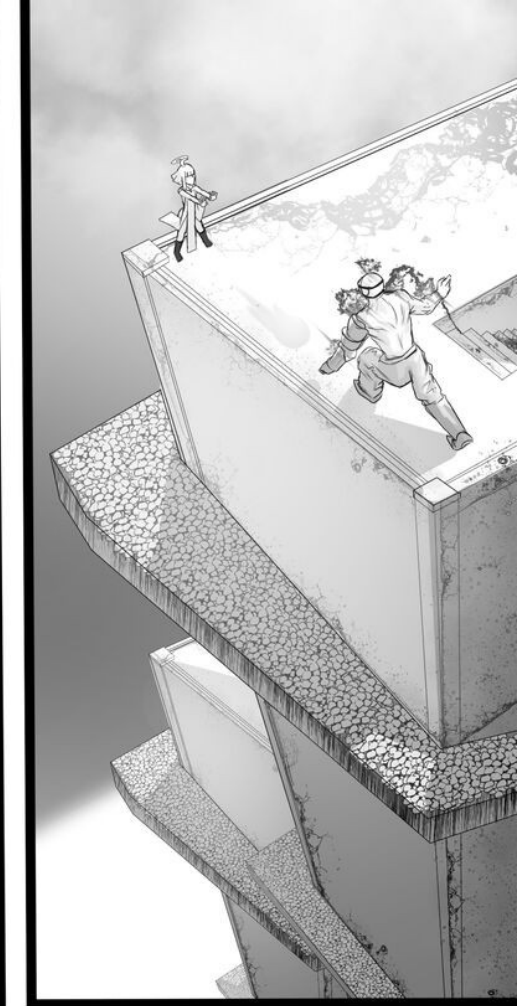
治るだろ、魔族だし



次はないけどね…

貴方じゃ私に触れることすらできないよ…

狩る相手は見てから挑んでね



フェイクル＝エンクル

- ・天高く座す魔塔の主人
大人しい性格とは対照的な
爆撃魔法を得意としている
- ・永命種であるため達観している



もったいない…

ボンッ

ボンッ

ボンッ

ボンッ



ニンゲン
下等生物って不思議…

命を無駄にすることは無いのに…



あやつめ…
分身と先行しおって…



少しは私の魔法が
役に立ったか？



同じ人間が二人！？

自分の魔法の音で俺に気づかねえから
不意打ちが簡単に決まる

それに

口で詠唱しすぎなんだよ

おう、遅かったな
今、生意気なガキまんこを躰けてるところだ

お前より小せえから
挿入れづらくてしょうがなかったぜ

ド
チ
ュ
ッ

ゴ
チ
ュ

重畳ではないか♡

次はどんな能力の女が欲しい？

ご主人さま♡

あとがき



ご購入ありがとうございます。
いやほんとにマジであります。



あとがきで、大学の頃のレポート書かされてる気分になっている啓モです。でもお礼は言える時に言います。

女の子の腹ボコなどが好きなのですが、それを友人に言ったら、『あんなギャグ描写が好きなのかよ』と言われ、心の中の愚○独歩がキレました。

完全にフィクションでの表現ですが、
好きになっちまったもんはしょうがない
この業を背負い生きていきたいと思います。

次はロリドラゴン娘の本を描きたいのですが、
ツノはさまざまな画角のものを素材として
描いておけばコピペで終わるのですが、ゴツゴツとした
尻尾は都度、描かなきゃいけないので腰が重いです(笑)

この次のページからは本編とは関係のない
おまけの青肌ドラゴン娘の
軽いえっちなおまけです。

啓モ

*この本の複写、転載などは禁止します。

冬になってから
彼女の自慰の頻度が明らかに多い…





荒療治になるが、
男の味をしってもらおうか

彼女は何をされるか
わかってないみたいだが：



抵抗が本格化する前に
一気に…

ぎゅっ





小さい体に俺のモノを完全に啜えさせる
征服感と背徳感に射精が促される

ひんやりとしながら、
絡みついてくるひだで
搾り取られる・・・！

ゴキョ

強姦まがいの
一方的な種づけをしてしまい
彼女は氣を失ってしまった





お腹温かい

痙攣が止まらない

一人でするよりも気持ちいい



この子のためでもあるはいえ

好き、この人間好き

気持ちいいことしてくれる

無理矢理だし殺されても文句言えないな……



眠りにつき、少したつと股間に、
違和感を感じて起きる
そこには、俺のペニスを食べる彼女がいた

前日、犯された影響か、
完全に俺を交尾相手と
認識してしまったらしい
彼女の体温を保持するつもりが
とんでもないことになった

凶器とも言えるあの歯のある口でしゃぶられてるとは
思えない快感だ。お返しにと思い
指で彼女の陰部に指を入れまぎうってやる

彼女の膧を弄る力を少し強め、
上部の方を舐めるように刺激してやると
集中できなくなったのか
口の動きが緩慢になってきた

自分で弄っているのを見たが、
あの爪でやるには神経質にならざるを得なかったようだ
それに、俺の指をお気に召したらしい
目を瞑り、自分の下半身の快感に集中している





一方的に感じることに罪悪感を感じたのか
彼女の口での奉仕の勢が増していく

必死に増していく口でのストロークと
分泌されている彼女の唾液のお温かみにより
射精まで導かれる…

飲む必要などないのに
必死に俺のモノを吸っている。
尿道の中の精子まで飲み込まれる

目に涙を浮かべるほどの苦しみよりも
昨日の快樂の方を優先したいらしい

じゅるるるるる

じゅるるるるる

あのキバがあつても。
ねつとりと絡みつくフェアの
気持ちよさの理由がわかった

とても長い舌で、キバから守ってくれていたのだ
それで、こぼれた精液や垢を口の中に運んでいく……
それがまた気持ちよかった

わ
る
り
ゅ
る

ねる
ゆる

全ての精液を搾り取ったと確信したのか
自慢げに口の中を見せてくる
その姿もまた愛おしい







飲み込んだことを伝えるために執拗に口の中をみせてくる
これでご褒美の交尾をしてくれると思っっているらしい
そんなことをしなくても、こっちの理性が限界なので
確実に孕ませる気持ちで今日は種付けしようと思う